

2025 年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京総合美容専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1.教育理念・目標

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが定められているか	4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか	3
理念・目的は、社会のニーズなどに対応し適宜見直されているか	4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか	4

① 課題

昨年度より注力している MVV および「行動指針」の浸透施策により、それらの理念をはじめ、学園が大切にしている「心理的安全性」や「ATM」等の共通言語については、教職員間で一定程度浸透・醸成されている印象を受けている。一方で、それらの理念を「挨拶」「時間厳守」「適切な言動」といった、実際の学生指導の現場にまで十分に結びつけるという点については、依然として課題が残っていると感じている。そのため、まずは教職員自身が、日頃学生へ指導している内容を率先して体現し、模範となる行動を徹底していくことが重要であると考えます。

② 改善方法

理念を「理解する段階」から、実際に「体現する段階」へと発展させていきたいと考えている。学生指導においては、言葉だけで伝えるのではなく、まずは教職員自身が学園の理念やキーワードを日々の行動で示し、「背中を見せること」を指導の根幹としていきたい。教職員一人ひとりの姿勢によって学生を導き、あたたかく愛情深い教育を組織全体で実践していくためにも、朝礼や各種ミーティング等を通じて、理念浸透への意識づけを日常的に行っていく。

③ 特記事項

採用面接時には、応募者へ MVV を事前に読んでいただき、その内容に対する感想や考えを伺うようにしている。教育現場に携わりたいという想いを持つ応募者が多いため、学園の理念や価値観に共感していただけるケースが多く見受けられる。その結果、採用後の価値観のミスマッチ軽減にも繋がっており、教職員の定着率向上や安定した雇用環境の形成にも一定の効果が出ていると感じている。

2. 学校運営

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか	4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか	4
意思決定のシステムは確立されているか	4
人事処遇に関する制度は整備されているか	3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	3
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4

① 課題

一昨年より、学園 2 校の業務を横断的に行う組織体制へ移行したことで、業務の効率化や合理化が図られた部分がある一方で、会議回数が増加などにより、教職員の負担が増している側面も見受けられる。また、今年度より成績管理システムが刷新されるため、操作方法や運用ルールに慣れるまで一定の時間を要することが想定される。円滑な運用を実現するためには、早期に統一した運用方法を確立することが必要不可欠である。そのため、システムに関する情報共有や運用上の課題について、メンバー間で頻繁に確認・共有を行い、連携を密にしながら進めていくことが重要であると考えます。

② 改善方法

会議開催の効率化を図るため、チャットツールやスプレッドシートの活用を進め、情報共有や進捗確認をオンライン上で行う体制づくりを進めている。これにより、必要以上の会議開催を減らし、教職員の業務負担軽減にも繋げていきたい。また、新成績管理システムの導入にあたっては、先行して運用を開始している姉妹校の教職員へ協力を依頼し、実際の運用事例や注意点等の共有を受けながら、円滑な稼働を目指して進めていく。

③ 特記事項

一昨年より新設された「国際ビューティーコース」については、学生募集が好調に推移し、定員 80 名に近い学生数を確保することができた。また、母国から直接入学する留学生も増加しており、在留資格更新や各種申請手続きなど事務業務面での負担増加も懸念されたが、新システムの導入や在留資格期間更新に関する研修会への参加を通じて、出入国在留管理庁（入管）への取次申請に対応できる人員体制の強化を図った。さらに、美容科「韓国ビューティーコース」が地方学生を中心に高い人気を集め、数年ぶりに美容科 200 名の定員に達する結果となった。

3. 教育活動

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか	4
授業評価を実施しているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか	4
資格（免許）の指導体制は整っているか	4
資格・要件を満たした教員を確保しているか	4
研修会など教員の資質向上への取り組みを行っているか	3
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか	4
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか	4

① 課題

今年度、新たに4名の中途採用者を迎えることとなった。そのうち1名は学校教育現場での勤務経験がなく、また2名については他校での勤務経験はあるものの、本学園の運営方針や学生指導の方法に慣れるまで、既存教職員による一定のサポートが必要であると考えている。円滑な組織運営と教育品質の維持のためにも、既存教職員との連携を密にしながら、OJTや情報共有を積極的に行い、新任教職員が早期に学園の理念や業務へ適応できる環境づくりを進めていきたい。

② 改善方法

新人教員が孤立することのないよう、クラス編成や役割分担について十分に配慮することが重要であると考えている。その点については、組織全体を見ながら学校長がバランスを考慮し、既存教職員との連携が取りやすい体制づくりを工夫して進めている。また、新任教職員については、経験不足による対応ミスやトラブルが発生する可能性も想定されるため、1年間を通して周囲が適切にフォローしながら運営していく必要がある。日常的な相談体制や情報共有を充実させ、安心して教育活動に取り組める環境づくりを行っていきたい。また、電子黒板を活用し授業の骨組を共通化をするとともに授業構成の安定化を目指す。

③ 特記事項

一昨年から、全教室に電子黒板を導入した。

電子黒板を活用し授業の骨組を共通化をするとともに授業構成の安定化を目指す。

4. 学習成果

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか	4
資格・免許の合格率の向上が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか	3

① 課題

内定状況や資格取得については、常に高い数字で推移している。美容業界全体的に人手不足が続いているので就職環境は引き続き良好であると思われる。それだけに、学生達が自分自身とのマッチングをしっかりと判断して入社を決めて欲しい。

② 改善方法

数年前からスタートした『夢を叶える授業』の効果に期待したい。実施後のアンケートでは、多くの学生が自己成長感を持つことができたようなので、就職力向上に寄与している。

③ 特記事項

美容業界全体として、従業員に対する処遇改善を積極的に進める企業が増加している。初任給の引き上げはもちろんのこと、奨学金返済支援制度の導入や、多様な休日・休暇制度を整備する企業も増えており、業界全体として明るい話題が多く見受けられるようになった。また、人材育成に力を入れる企業も増加しており、技術研修やキャリアアップ支援など、教育制度の充実も図られている。

5.学生支援

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか	4
退学率の低減が図られているか	3
学生相談に関する体制を整備しているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	—

① 課題

学生のメンタルヘルスケア対策として、これまで外部業者による相談窓口を設置していたが、利用実績が年間1名程度と少なく、今年度については利用者が0名であったことから、継続について見直しを行った。その結果、学生による相談実績が確認できなかったため、外部相談窓口の継続は行わない方向とする。

一方で、学生が必要な際に適切な相談機関へアクセスできるよう、「厚生労働省」の【こころの健康相談統一ダイヤル】や、「東京都保健医療局」の【ここナビ】、「東京都立精神保健福祉センター」等の相談窓口を学生ガイドブックへ掲載し、無料でカウンセリングや相談を受けられる体制について周知を図る。

② 改善方法

現時点では、各種取り組みが退学者数や学生トラブルの減少にどの程度結びついているか、明確な検証には至っていない。そのため、担任による定期面談を実施し、学生の状況把握と早期対応を強化していく。また、必要に応じて相談窓口や支援制度を案内し、学生が一人で悩みを抱え込まない環境づくりに努めたい。

③ 特記事項

卒業生に対して美容業界で再挑戦したいと考える方々への支援体制として、継続的に取り組みを進めていく。また、学生の経済的負担軽減に対する支援として、後援会による支援制度や、日本学生支援機構の給付型奨学金制度への対応・案内も行っている。学生一人ひとりの状況に応じた支援を行い、安心して学業を継続できる環境整備に努めていきたい。

6. 教育環境

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか	4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

数年前から導入した学力向上および学科試験対策のアプリ『モノグサ』、一昨年からは、全教室に電子黒板を導入した。学習効率を高める ICT 教育への移行を進めている。一方で、防災・安全に関する体制整備はあまり取組ができていない。

校外学習においては、企業様と連携し撮影現場の見学、業務のサポートを行える環境を準備したが、一部の積極的な学生だけの参加にならないよう、ニーズに合わせた授業授業

② 改善方法

防災・安全に関する取り組みについては、今後さらに実効性を高めていくため、消防署等の関係機関へ相談・意見交換を行い、専門的な視点から助言をいただきたいと考えている。

その上で、学生・教職員双方にとって安全性の高い環境づくりを目指し、学園として理想的な防災・安全対策の在り方を模索しながら、継続的に改善を進めていきたい。

また、今年度は学生人数分の非常用トイレの購入をしている。

③ 特記事項

中断していた海外研修を再開したことで、多くの学生が異文化や海外の美容・ファッションに直接触れる機会を得ることができ、学習意欲や将来への意識向上に繋がっている。特に韓国研修においては、現地の最新美容技術やトレンドを肌で感じることもできたほか、提携校である西京大学校での授業環境にも触れることができ、学生にとって非常に有意義な経験となった。また、既存のインターンシップ制度やスチューデントサロン、ボランティア活動についても、学生・企業双方から好評を得ているため、実践的な学びの機会として今後も継続して実施していきたい。

7. 学生募集と受入れ

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか	4
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考基準は明確になっているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は、妥当な金額設定になっているか	4

① 課題

本校の特色である「業界のトップに学ぶ授業」について、より強く打ち出していく必要性を感じた。また、【美容科】においては「韓国ビューティーコース」が他校との差別化につながっている一方で、【トータルビューティー科】については学生数が減少傾向にあるため、より魅力的なコース内容や特色の打ち出しが必要である。

② 改善方法

ご登壇いただく企業数や、授業・実習の具体的な時間数を明確に打ち出し、他校との差別化をより一層図っていくことが重要である。また、【トータルビューティー科】については、新コースとして「ビューティーキャリアコース」を新設し、美容を幅広く学びながら、多岐にわたる職業を目指せる体制を整える。さらに、既存コースについても、

「メイクコース」→「ビューティーアドバイザーコース」

「ネイルコース」→「トップネイリストコース」

へ名称変更を行い、各コースの特色や学びの方向性をより明確に打ち出していく。

③ 特記事項

独自の給付奨学金制度である「スペシャルサポート制度」については、応募者の負担軽減を図るため、選考方法を見直した。具体的には、実技試験を廃止し、自己PRを動画提出形式へ変更するとともに、筆記試験についてもオンライン実施へ変更した。

その結果、地方在住者を含め、多くの優秀な学生から応募があり、約60名の応募者を獲得することができた。最終的に、その中から20名を対象者として選考し、入学へつなげることができた。

8.財務

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1 評価	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
財務情報開示の体制は整備されているか	3

① 課題

昨今、様々な物価や運営コストが上昇している状況を踏まえると、学費改定についても検討が必要な段階に来ていると感じている。しかしながら、他校との競合状況や学生募集への影響も考慮する必要があり、簡単に判断できる状況ではない。そのような中で、教材費については、可能な限り学生負担を軽減できるよう企業努力を行いながら、一部についてはやむを得ず価格改定を実施した。また、2027年度の入学生より行事費についても徴収額の改定を予定している。今後も、教育品質の維持と学生負担のバランスを慎重に見極めながら、適切な運営を行っていききたい。

② 改善方法

今後は、これまで以上に経費に対する節約意識を教職員全体で持ち、限られた予算の中で効率的かつ効果的な学校運営を行っていくことが重要である。また、教育効果を維持しながら、合理的な授業運営やイベント実施方法を検討し、無駄を削減しつつ学生満足度の向上にも繋げていきたい。

③ 特記事項

事務手数料の徴収や補講代金の支払いについては、券売機の導入やコンビニ払いへの移行を進めたことで、学校窓口における現金取扱いが大幅に減少した。これにより、会計処理の効率化や現金管理に伴うリスク軽減に繋がっており、教職員の業務負担軽減にも一定の効果が見られている。今後も、学生・教職員双方にとって利便性の高い運用方法を検討しながら、業務改善を進めていきたい。また、トータルビューティー科「国際ビューティーコース」については、留学生教育を行っている他校の学費状況等も踏まえ、教育内容やサポート体制に見合った適正な学費設定となるよう検討を行った。その結果、次年度募集より学費改定を実施し、募集活動を進めていく。

9.法令等の遵守

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか	4
個人情報保護に関する対策が取られているか	4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価結果を公表しているか	4

① 課題

一部の教職員に業務が集中する傾向が見られている。特に、美容師免許取得者については業界全体で人材確保が難しく、教育現場においても採用が困難な状況が続いている。今後は、採用活動の強化に加え、業務分担の見直しや効率化を進め、教職員一人ひとりの負担軽減と働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきたい。

② 改善方法

これまで広報職については大学卒業者を中心に採用を行ってきたが、今後は本校卒業生であり、美容業界での実務経験を有する人材の採用にも力を入れていきたいと考えている。本校への愛校心に加え、実際の美容現場を経験していることは、学生募集活動や高校訪問、オープンキャンパス運営等において大きな強みになると感じている。また、教員採用についても、卒業生へ積極的に声掛けを行い、本校で学び成長した人材が教育現場で後輩育成に携わる循環を作っていきたい。卒業生ならではの経験や価値観を活かし、学生に寄り添った教育体制の強化を図っていく。

③ 特記事項

労働関係法令の改正については、適切に対応できるよう、顧問弁護士や社会保険労務士へ相談を行いながら、必要に応じて就業規則の見直し・改定を実施している。法令遵守を徹底するとともに、教職員が安心して勤務できる職場環境の整備に努めていきたい。

10.社会貢献・地域貢献

【評価項目】 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
国際交流に取り組んでいるか	3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか	3

① 課題

学校施設の有効活用の一環として、マルチホールや教室を外部へ貸し出す事業を実施している。地域や企業との連携機会の創出に加え、収益確保という側面でも一定の効果が見られている。一方で、施設・設備の老朽化に伴い、空調設備や備品等の修理・交換が一定程度発生している状況である。安全面や教育環境維持の観点からも、計画的な修繕・設備更新を進めていく必要があると考えている。

② 改善方法

施設・設備の老朽化に伴う修理費用や備品の買い替え費用が増加していることから、維持管理費を補うためにも、マルチホールや教室貸出に関する利用料金の改定を検討している。今後は、利用状況や近隣施設の料金設定等も踏まえながら、適正な価格設定を行い、安定した施設運営に繋げていきたい。

③ 特記事項

一昨年度よりスタートした国際ビューティーコースの募集活動を通じて、日本語学校関係者や留学生との接点が大きく増加している。これにより、新たな教育連携や留学生募集のネットワーク構築にも繋がっており、国際色豊かな学習環境形成の一助となっている。また、グループ校と連携することで、日本語教育機関に対する広報・PR活動をより効果的に行える環境が整いつつある。今後は、教育内容やサポート体制の魅力を積極的に発信し、学習意欲が高く、美容業界への就職意識を持つ優秀な留学生の獲得に繋げていきたい。